

令和4年度事業一覧 ■：令和4年度から新規事業

		日常の療養支援	入退院支援	急変時の対応	看取り
<p>目指すべき姿 「在宅で生活し続けられるまち」</p>		<p>医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活ができるようにする。</p>	<p>入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。</p>	<p>医療・介護・消防(救急)が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。</p>	<p>地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人(意思示せない場合は家族)と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。</p>
<p>在宅医療・介護連携の企画立案及び</p>	<p>地域の医療機関、介護事業所等の情報を把握し、これまでに自治体等が把握している情報を合わせて、リスト又はマップを作成、活用する。医療・介護専門職の意見を聞きながら市の現状を把握し、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築を達成するための課題を明確にした上で、具体的な取組を企画・立案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会 2回/年 ■ ACP検討ツールプロジェクト(R4.8～毎月開催) ■ 情報連携ツールプロジェクト(R4.9～隔月開催) ○ H2Oミーティング 5回/年 ○ 井戸端会議 3回/年 ○ 整形の先生・皮膚科の先生との井戸端会議 ○ 歯科との勉強会 (R4.8.25) 参加者18名 ○ 講義「訪問歯科が我が家へやってきた」ほか ○ 薬剤師会との交流会 (R4.9.28) 参加者36名 ○ グループワーク「記憶に残る在宅、介護事例の共有」 ○ 医療と介護の意見交換会 (R4.11.25) ○ ヘルピーネットの活用を考える(体験会含む) ○ 地域性の理解・資源把握と見える化 			
	<p>H2Oミーティング 日進市と連携のあるがん拠点病院を中心に地域と病院をオープンな連携に繋げるためR3年度から開催。 内容：講義、事例提供、グループワーク等 ①藤田医科大学「スムーズな在宅支援」 ②日赤名古屋第二病院「退院支援困難症例」 ③豊田厚生病院「緊急入院、レスパイト入院が必要になったときの対応」 ④愛知医科大学病院「難病のかたの退院支援での連携」 ⑤名古屋記念病院「退院支援困難症例について」</p>	<p>市内病院の入退院状況について情報収集</p>	<p>・在宅医・訪問看護の定期的な情報収集 ・高齢者施設の医療提供状況(看取り含む) 一覧表作成 (R4.10)</p>		
<p>在宅医療・介護連携に関する相談支援</p>	<p>地域の在宅医療と介護の連携を支援する相談窓口の運営を行い、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの在宅医療、介護サービスに関する事項の相談受付を行う。 また、必要に応じて、入退院の際の地域の医療・介護関係者の連携の調整やその仕組みづくりを行い、利用者、患者または家族の要望を踏まえた、地域の医療機関・介護事業者相互の紹介を行う体制の構築を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談総件数:121件 (R4.4月～R5.1月末日まで) ○ ※R3年度 相談総件数:39件 (R3.4～R4.3) ○ 相談できる関係作り、顔合わせの継続 (H2Oミーティング、井戸端会議の開催) ○ 事業所が連携する病院の連絡先一覧表 更新 ○ 主治医連絡窓口表 更新 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入退院に関する相談件数:32件 (訪問診療、訪問看護についての問い合わせ、調整など) 		
		<p>R5年度 情報収集、更新予定</p>			
<p>市民への普及啓発</p>	<p>地域住民やその家族が病気で療養が必要になった際に、自分らしい暮らしを継続するために必要なサービスや支援を適切に選択できるように、在宅医療・介護サービス等に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等を行い、理解促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民公開講座 (R4.11.13) 参加者数:124名 ○ 「ずっと暮らせるまち日進のために今できること、これからやること」 ■ 出前講座 (R4年度～新規事業) 参加者総数:211名 ■ 広報にしん10月号「在宅医療・介護」情報掲載 ○ 在宅医療と介護のパンフレット配布 			
		<p>老人クラブ、サロン、まちづくり協議会、年金者の会を対象に出前講座を開催。 「かかりつけ医について」「口腔ケア」「栄養講座」「軽い体操」「薬の適正使用と病気の予防」「在宅医療と介護」をテーマに8回開催。次年度はACPをテーマにした講義も開催予定。</p>			
<p>医療・介護関係者の情報共有の充実</p>	<p>入退院時や在宅での看取りの場面等に活用できる情報共有の手順を含めた情報共有ツールを整備し、活用に向けた調整を行う。ツールの一つとして電子@連絡帳を用い、利活用支援を行うとともに、医療・介護関係者と意見交換を行い、有効な活用方法について検討する。 地域の医療・介護関係者の連携を深め、地域住民が住み慣れた場所で自分らしい暮らしを継続できる仕組みを実現するために、医療・介護関係者のスキルアップや、多職種連携に関する研修や顔の見える関係づくりの機会創出等について企画、実施する。 また、介護関係者による事業所別や職種別団体等の立ち上げ、運営支援に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会 2回/年 ■ ACP検討ツールプロジェクト (R4.8～毎月開催) ■ 情報連携ツールプロジェクト (R4.9～隔月開催) ○ H2Oミーティング 5回/年(偶数月) ○ 井戸端会議 3回/年 ○ 整形の先生・皮膚科の先生との井戸端会議 ○ 歯科との勉強会 (R4.8.25) 参加者18名 ○ 講義「訪問歯科が我が家へやってきた」ほか ○ 薬剤師会との交流会 (R4.9.28) 参加者36名 ○ グループワーク「記憶に残る在宅、介護事例の共有」 ○ 医療と介護の意見交換会 (R4.11.25) ○ ヘルピーネットの活用を考える(体験会含む) 			
		<p>■ ACP検討ツールプロジェクトは、人生における最終段階の医療・ケアについて、元気うちから市民自らが前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みを積極的に行えるように普及啓発ツールを検討している。 ①令和4年8月から毎月開催。現在、普及啓発資材となるACPリーフレット、ACP手帳について協議・検討中。 デザイン協力を名古屋学芸大学へ依頼。＊完成は次年度夏頃を目指す。 ②令和5年度は、出前講座、市民公開講座、多職種連携研修会などで積極的にACPをテーマに開催予定。 ■ 情報連携ツールプロジェクトでは、地域の共通基盤であるヘルピーネットの普及促進へ向けて協議している。 新規患者登録を増やすこと、ヘルピーネットを日頃の業務で使える情報連携ツールにすることを目指して、次年度は出前講座方式で希望された事業所へ出向き、ヘルピーネットの体験会を含めて開催予定。</p>			